

ごあいさつ

本日はお忙しい中、平成 30 年度プロジェクト演習活動報告会にお運び戴き、誠にありがとうございます。

大学間・高大間の連携で、学外の多くの方々にご支援を戴きながら活動し、教室の中だけでは得られない、多くの学びを得ることができました。ご指導・ご支援を戴きました皆様に、この場を借りて篤く御礼申し上げます。

本日の限られた発表時間内では伝えきれないお話や、ご覧戴きたい資料を揃えて、ポスターセッションの場を設定致しました。

これを機に、より多くの皆様にプロジェクト演習に関心をお持ち戴ければ幸いです。

手狭な会場で恐縮に存じますが、どうぞごゆっくりご参観下さい。

平成 30 年 12 月 15 日

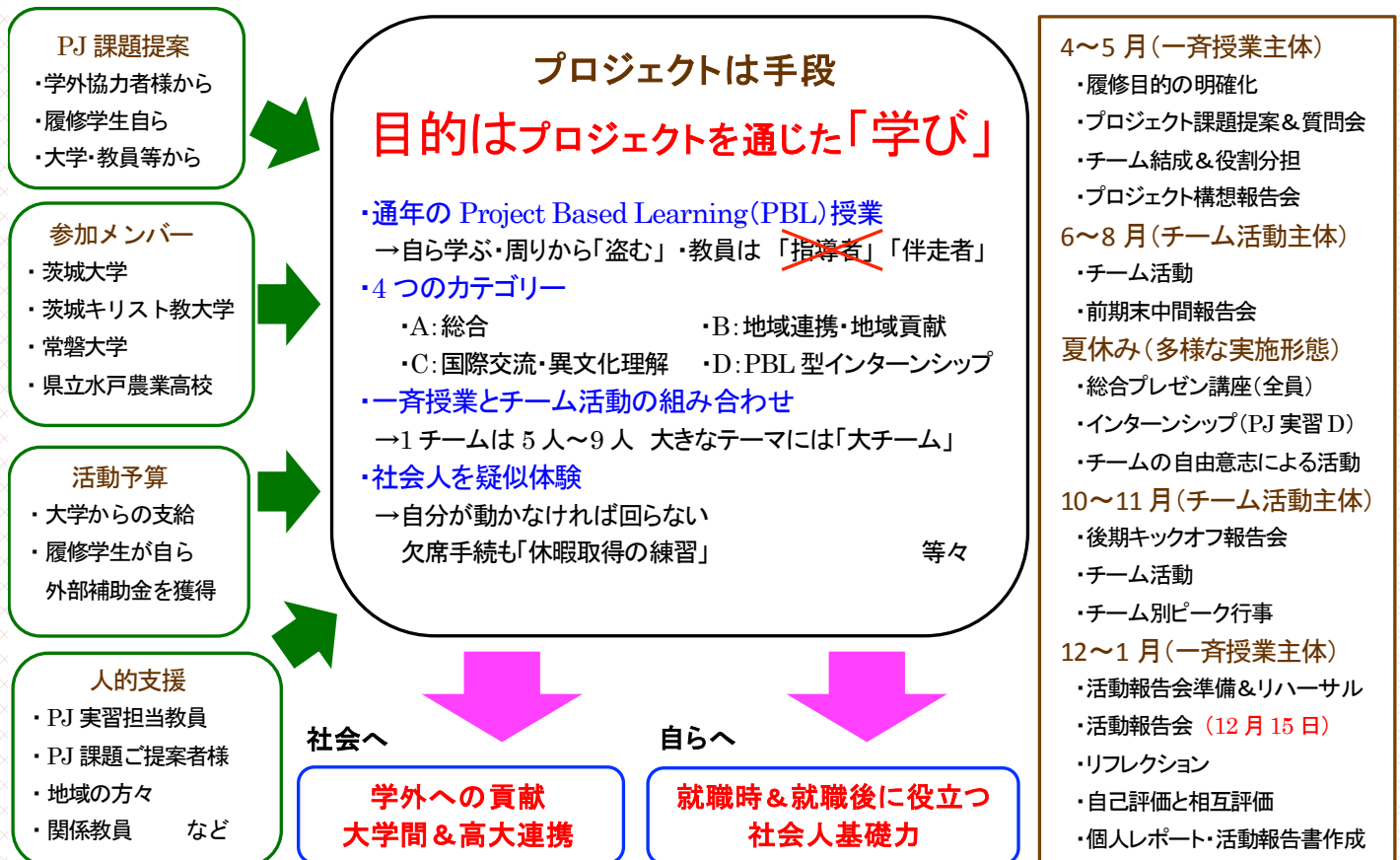
報告者チーム一同

プロジェクト演習のご紹介

地域で活動し、「社会人基礎力」を身につけよう！

経済産業省「社会人基礎力」：<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>

プロジェクト (PJ) 演習とは



2018 年度に提案されたプロジェクト課題

*** 授業スタート後に、履修生自身でプロジェクト課題を提案することもできます**

< カテゴリー B : 地域連携・地域貢献 >

- ・若者・よそ者で里美の地域おこし活動
- ・小型水車で地域貢献！

(2017 年度プロジェクト実習履修学生)
(茨城大学教員)

< カテゴリー C : 国際交流・異文化理解 >

- ・異文化交流プロジェクト

(茨城キリスト教大学教員)

< カテゴリー D : PBL 型インターンシップ >

*** カテゴリー D には、通常の活動に加えて 2 日間以上のインターンシップが組み込まれています**

- ・よりよいコミュニケーションへの提言
- ・公共交通活性化プロジェクト
- ・こみっとフェスティバルに若者の力を！
- ・ワインツーリズムでまちを元気に
- ・図書館からの震災復興

(NTT コミュニケーションズ株式会社技術開発部様)
(水戸市役所交通政策課様)
(水戸市役所市民生活課様)
(Domaine MITO 株式会社様)
(福島県富岡町教育委員会様)

プロジェクト演習を含む、人文社会科学部地域志向教育プログラム HP がスタート！





さとみ・あいチーム

メンバー: 江口紗姫 大村みるほ 塩手菜々美
北野友香 羽田野里菜 永田典子
田島彩花 飯塚子都香 野村明里
寺元彰徳 久利生秋華

プロジェクトの概要

茨城県常陸太田市の北部に位置する里美地区

過疎化・少子高齢化が進んでいる…

⇒ **里美地区に活気を与えるために！**

〈目的〉

～里美の特産物・里美の方々との交流に着目し、魅力発信～

- イベントを通して学生と里美の方々に交流を楽しんでもらう
- 里美の特産物をよそ者である私たちが情報発信することで、里美の域外だけでなく域内の方々にも、その魅力をより知ってもらう

活動内容

- ・計 13 回の里美訪問と約 50 回のミーティング
- ・イベント「もぐもぐさとみ」の企画運営
- ・「2018 さとみ 秋の味覚祭」への出店

4月～9月	カボチャ・米の栽培 イベントに向けた企画立案
10月	もぐもぐさとみ 対象は <u>学生</u> 。里美の方々との交流を通して、里美の魅力を知ってもらうことを目的とした。農作業体験や里美の食材を使った料理の提供、トークセッションを行った。
11月	2018 さとみ 秋の味覚祭 里美で毎年開催される催し。 <u>里美の方々</u> に里美の魅力をより知ってもらうことを目的として、出店。自分たちで作ったおだかけ米と、蕨を使った正月飾りを販売した。

結果

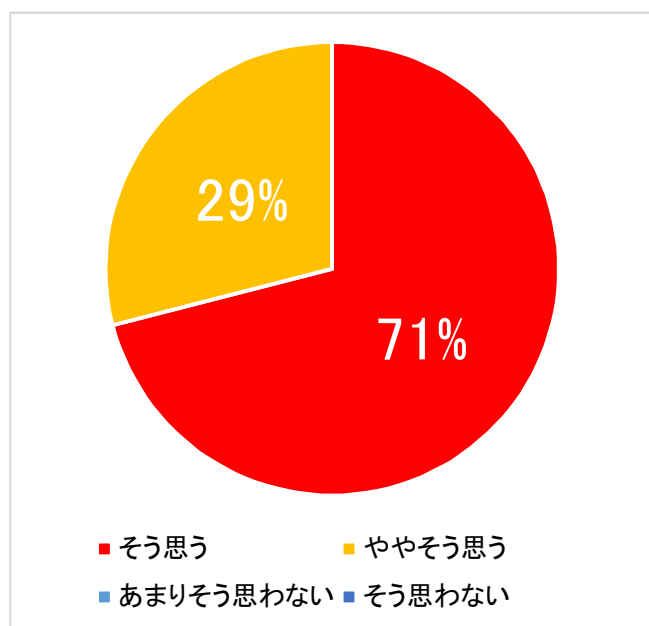
1. もぐもぐさとみ

・参加者 計 32 名(うち、一般学生 12 名、里美の方々11 名)

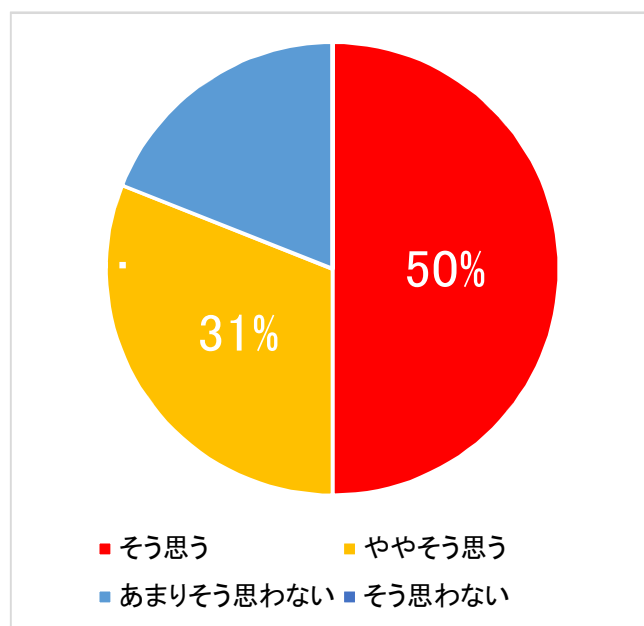
・アンケートの実施

〈成果の基準〉「そう思う・ややそう思う」で8割→**達成**

里美にまた来たいと思ったか



このイベントで交流できたか



2. 2018 さとみ 秋の味覚祭

〈成果の基準〉商品の完売

正月飾り・・・7本販売(30 本用意)→**達成ならず**

おだかけ米・・・完売(3合 46 袋、10 合 31 袋用意)→**達成**

まとめ

もぐもぐさとみや味覚祭での出店をはじめとする1年間の活動を通して、〈成果の基準〉において達成できなかった部分はあるものの、〈目的〉としていたことは実現できた。

今後の展望としては、これまでに培ってきた経験を生かし、若者が里美へ足を運ぶ機会を継続して創出したい。また、里川カボチャのPRなど、域外での里美の魅力発信活動により力を入れていきたい。

里川カボチャの魅力を伝えるために ～私たちのチャレンジ Vor. 2～

茨城県立水戸農業高等学校 食品化学科

2年 高土夏花・大津ひなた・野平祐美

鴨志田優月・飯田幸多

1. はじめに

このプロジェクトを始めたきっかけ



先輩方が過去に行っていた

この活動に興味を持ったため

昨年の活動



昨年の茨苑祭にて販売した里川カボチャパイ

販売したパイの状態



2. 目標

最終目標：里川カボチャを知ってもらい、

常陸太田市里美地区のPRにつなげる

今回の目標：里川カボチャの特徴を生かしたスイーツ等の

レシピを考案し、発展につなげる

3. レシピ

スコーン (材料)

薄力粉 500g 砂糖 40g 卵 1個 (60g)

牛乳 200ml B. P 18g

里川カボチャペースト 125g



作り方

- ① オーブンを予熱 (180℃)
- ② 粉類をふるいにかけて、ボールに入れる
- ③ ペーストに牛乳半量と卵を入れて混ぜる
- ④ ②のボールに③を入れて練る

残りの牛乳を入れながらやわらかさを調節する

- ⑤ 1時間冷蔵庫に寝かせる
- ⑥ 麺棒で4回3つ折りにする
- ⑦ 棒状 (厚さ1cm×縦16cm×横1.5cm) で切る
- ⑧ オーブンで約20分焼く

4. 感想

今回のスコーンのレシピでは、里川カボチャの甘さと色に重点を置いたため、風味を生かすところまで、たどりつかなかった。

次は、すべてのよさを生かせるようなレシピを考案していきたい

また、茨苑祭での販売ができなかったのが非常に残念であるため、今回の失敗を今後の活動に生かしたいと思う。



メンバー：大内 あかり 齊藤 眞理子
袴塚 梨帆 澤田 香沙美

活動動機

文部科学省は「国際化の発展は人と人との相互理解・相互交流が基本」と提言している。しかし、二つの現状があげられる。

現状①若年層と外国人の交流機会が少ない

現状②外国人訪問者と地域住民の交流が少ない

わたしたちの大学がある大みか町では外国の方を多く見かける。しかし交流をしている姿は見受けられない。現状を改善したいと思い、私たちは二つの目標を立てプロジェクトを始動した。

目 標

目標①異文化を持つ人と交流する機会を設け、若年層の豊かな人間関係を構築する

異文化交流フォーラム

目標②大みか町の魅力を発掘し、英語で発信をする

大みかマップ／Omika Map 作成

スローガン

結んで、広げて、**多文化共生**の輪

このスローガンは私たちが学生、地域住民、外国人との交流の契機となり、異文化交流の架け橋となっていきたいという思いが込められている。

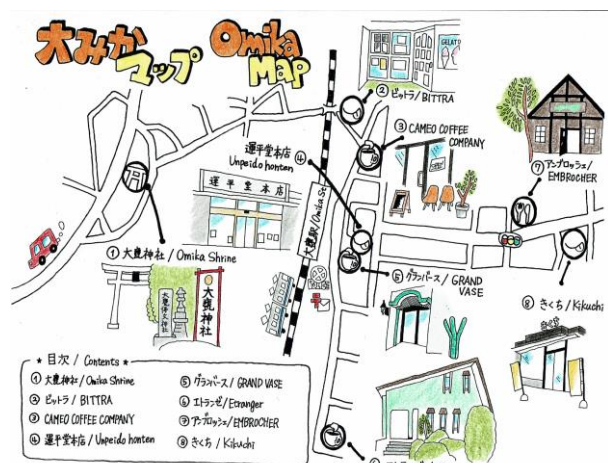
結んで  人とのつながりを結び

広げて  コミュニティを広げることを意味する。

活動内容

異文化交流フォーラム

7月16日(月)に茨城キリスト教大学にて高校生及び本校インターン・留学生を招待し、「異文化交流フォーラム」を開催。文法や単語の間違いを恐れず、積極的に英語を使うことを目指したイベントである。会場には笑顔が溢れていた。活動後にご協力いただいたアンケートでは、約9割の方から、「参加して満足」との回答を得ることができた。



大みかマップ OmikaMap 作成
大甕駅を利用している外国人が多いにもかかわらず、地域住民との交流が少ない。少しでも大みか町に興味を持ってもらいたいという思いをこめてカラーのマップを作成。マップには本校のインターン生の意見も反映した。次年度は冊子の完成をめざして活動を継続する。

まとめ

私たちは活動を通して、計画を立てることや、適切な方法で事前確認することの重要性を学び、更に個人個人の社会人基礎力を向上することもできた。後期の活動である大みかマップ／Omika Map 作成では異文化フォーラムの反省点を活かして、やるべきことをリスト化し、活動責任者を決めてカレンダーにまとめて活動をしたことで、計画通りに作業を進めることができた。

水戸交通屋さんチーム

メンバー:荒牧瑞稀・粕谷紗雪・佐藤怜璃・志賀有紗

水戸市のバス利用促進に向けて

市民の足として欠かせない公共交通機関のひとつ、路線バス。ICカードや乗継割引などのサービスにより、利便性は高まっているものの、通勤通学以外での若者のバス利用は少ない。では、若者が乗りたいと思えるバスには何が必要か。それは、目には見えない運転士の方々と利用者との“つながり”なのではないかと私たちは考えた。

イントロダクション

水戸市役所様から水戸の公共交通利用促進する取り組みについてご提案をいただいた。そこで、茨城交通株式会社様に協力をして頂き、路線バスに着目。利用促進のねらいとして、「利用者が運転士の方々に親しみを持つ」ことを考えた。手段としては、リーフレットを選択。運転士の方々についての紹介とともに、水戸のおすすめのお店、場所を掲載した。運転士の方々をより身近に感じるとともに、水戸の街おこしをねらった。

↓ 茨苑祭での展示



材料・方法

茨城交通株式会社様の運転士の方々にインタビューを行った。また、そこで挙げたおすすめのお店、場所に掲載の許可を頂いた。それらの情報をもとにリーフレット第一稿を作成。そして、茨苑祭でリーフレットの展示をし、来場者にアンケートを実施した。その際にいただいた意見をもとに完成版のリーフレットを作成した。

結果（リーフレット第一稿）

茨苑祭にて、リーフレットを展示し、来場者の方にアンケートを実施。計39名に協力をしていただいた。

- 良い点としては、(1) 運転士さんの顔が見えるのは親しみが持てる、
(2) イラストや色合いがおしゃれ、(3) 色合いがソフトで心地良いという
意見をいただいた。
- 改善すべき点としては、(1) リーフレットの用紙の大きさが小さい、
(2) 運転士さんの一言的なものがあったらよいのでは、(3) 運転士さんの
苗字と名前の間にスペースが欲しいという意見をいただいた。

今後の展望

茨苑祭でいただいた意見をもとにリーフレット第二稿を作成。手に取っていただいた方へネットアンケートを実施し、成果の検証をする。

まとめ

プロジェクト内容の性質上、バスの利用促進が達成できているかは目に見えて分からない。しかし、普段乗らない人はもちろんのこと、普段乗っている人も運転士の方々に親しみを持つことで、バスに乗る際の意識の変化が期待できるのではないだろうか。

私たちの活動では、補助金を採択していただいたり、5名の運転士の方々に取材・掲載の協力をしていただいたりと、多方面からのご支援のおかげでここまで進めることができた。最終版のリーフレット完成、成果の検証まで、しっかりと、丁寧に、プロジェクトをやり遂げたい。

こみフェスチーム

メンバー：庄司果織・田岡真美子・関森ちあき
小松晴夏・大塚萌

水戸市で活動する NPO やボランティアの繋がりを作る

こみっとフェスティバルとは、水戸市内で活動する NPO やボランティア団体の日頃の活動や成果を発表する場。また、ボランティアの活動を多くの人々に知っていただいたり、活動団体どうしの繋がりを広げたりする場でもある。私たちはこみっとフェスティバル広報係として、ボランティア活動の周知、特に若者への周知を目標として活動を始めた。

ボランティア活動

ボランティアを周知するためには、まず私たちがボランティアを知ることが必要だと考え実際にいくつかの団体の活動に参加した。

- ・ 8 月 18 日 こども食堂（にこにこ食堂・茨城保健生活協同組合）
- ・ 9 月 10 日 0 歳あかちゃんサロン（あっとまま）
- ・ 10 月 19 日 放課後学級（NPO 法人水戸こどもの劇場）



参加して感じたこと

実際にボランティア活動に参加することで、ボランティアの楽しさや、やりがいを感じることができた。またボランティアには様々な年代の方々が関わっていることを知り、学生にももっと参加して欲しいと感じた。

学生団体の参加を促進

より多くの若者にこみっとフェスティバルに来てもらう工夫の一つとして、学生団体の参加数を増やした。茨城大学のチア Cherry' s や東北ボランティア*Fleur*などに参加を呼びかけ、参加していただけることになった。学生参加の増加により、例年より多くの若者の来場が期待できると考える。



広報活動

ボランティア活動を身近に感じてもらうため、私たちこみフェスチームはラジオ出演、参加したボランティアについてまとめたフリーペーパーの作成、SNS での広報活動を行った。茨苑祭ではこみっとフェスティバルと私たちが行ってきた活動についてまとめるとともに、チラシとフリーペーパーを配布した。

まとめ

ボランティア活動に参加する前は、ボランティアに対して漠然としたイメージしかなかった。しかし実際に体験することでボランティアの楽しさややりがいを感じることができた。若者たちにボランティアに興味を持ってもらうため広報活動に主に力を入れて活動した。広報が一方的になってしまう反面、興味を持ってくださる方もいた。2019年2月16日（土）に行われる本番当日に向けて、宣伝を続けていくとともに、ボランティア活動に参加したい。

sucSeed

メンバー:青木玲奈・小野瀬篤美・岸朱里
重富優希・鈴木葵・廣木彩乃

sucSeed (サクシード) とは？

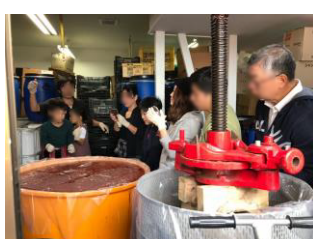
私たち sucSeed は水戸の魅力を再発見して発信し、水戸に人を呼び込むこと<地域活性化>を目的としたチームです。Domaine MITO 株式会社様のご支援のもと、水戸の新たな魅力として、まちなかワイナリーの存在を発信するとともに、水戸の既存の魅力を再発見するためのツアーを企画・運営しました。

Domaine MITO 株式会社様 紹介

Domaine MITO (株) は葡萄の栽培・ワインの醸造まで全てを自らの手で行い、販売する事を目指して立ち上げられた会社です。2016年には、水戸市街地でまちなかワイナリーをオープンし、醸造を始めました。

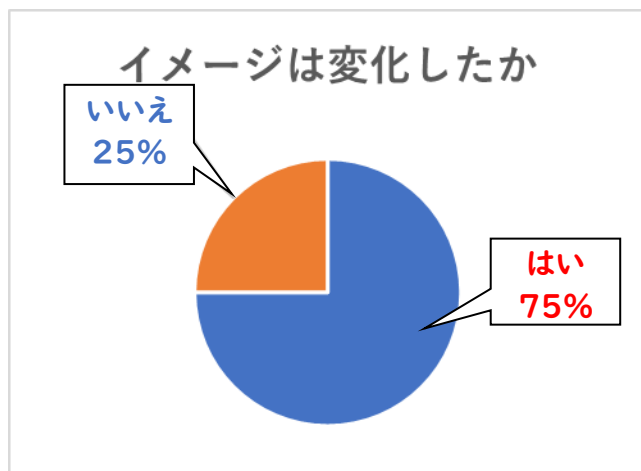
「和 in 水戸」ツアー

10/14 に東京駅発着の水戸堪能日帰りバスツアーを開催しました。水戸の既存の魅力と新たな魅力を両方取り入れたツアーにしたいと考え、テーマは和（歴史やあんこうなど）とワインに設定しました。醸造体験→京成百貨店→山翠→弘道館→偕楽園という流れで進み、車内アナウンスから現地でのガイドまで全て自分たちで進行致しました。



ツアー 成果

ツアー参加者に実施した事後アンケートでは、次のような結果が得られました(グラフ参照)。

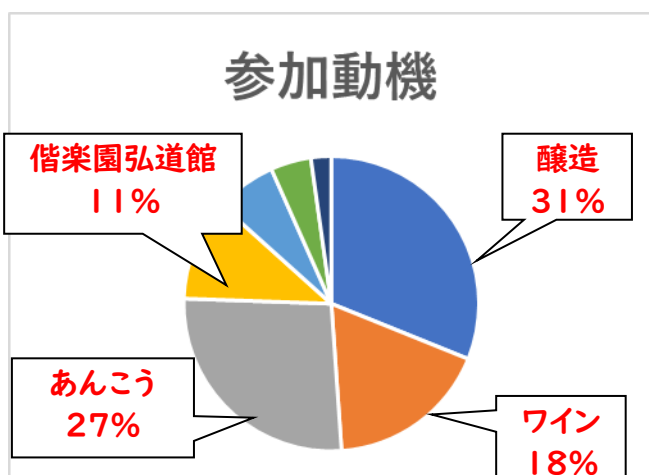


〈はいを選んだ方の意見〉

- ・東京から近い
- ・若い人が水戸を盛り上げようとしている など…

〈いいえを選んだ方の意見〉

- ・元から茨城が好きなので特に変わらなかった など…



ツアーを企画するにあたって、ワイン・あんこう・歴史という三つの要素に注目して水戸の魅力を発信していこうと考えた。参加動機を調べたところ、3つの項目の割合が高かった。よって、私たちの工夫は成功したといえる。

まとめ

私たちはこのプロジェクトを通して、様々なことを学びました。ツアーを自分たちでゼロから作り上げることは大変でしたが、それ以上に得たものは大きいと感じています。例えば、情報把握能力や長期的視点で計画を立てる力を身に付けることが出来ました。このプロジェクトを通して得たことを、今後のそれぞれの活動に生かしていきたいです。





とみ咲ク

メンバー 羽田野里菜・永田典子
戸谷実花子・大貫史織・野平知里

プロジェクトの目的

福島県双葉郡富岡町は、東日本大震災での原発事故の影響を受けた町です。そして昨年、帰還困難区域を除く地域で避難指示が解除されました。そのため、町に戻ってきている住民はまだ多くありません。その中で、私たちとみ咲クチームは、今年4月に再開した図書館を「集う」図書館にコーディネートし、かつての町民の皆さんの憩いの場・文化交流センター「学びの森」を再度コミュニケーションの場として活性化することを目的とし、月2回ほど富岡町に訪問し活動しています。

主な活動

8月26日

謎解きスタンプラリー



学びの森の施設を知って頂くために企画。各部屋に設置された「謎」を解いて回りました。約60人の方に参加していただきました。

11月25日

文芸祭



朗読劇や参加者の皆さんとの合唱の他、町の皆さんから募集した様々な作品を展示。約60人の方に参加していただきました。

常設展示

- ・富岡町の皆さんから趣味で作成した作品をご提供いただき、学びの森内に展示しました。皆様のご協力のおかげで数多くの作品が集まり、上記の文芸祭でも展示を行いました。
- ・とみ咲クチームがパネルを作成し、富岡町の「麓山の火祭り」をはじめとする福島県の祭りや、おすすめの風景を紹介しました。



落語体験教室

茨城大学落語研究会の学生を講師として、学びの森内の和室で全6回開催しました。教室への参加を通して、町民の皆さんが再び学びの森に集まり、落語を通じての交流が図られることを目標に計画しました。教室では、落語の披露の後、参加者の皆さんに「そばを食べる」などの簡単な動作の体験をしていただきました。



まとめ

様々な活動を行っていく中で、次第に町の皆さんに「とみ咲ク」という名前を覚えていただき、私達の活動に協力していただけていることを実感しました。私たちの活動が、少しでも学びの森に町民の皆さんの笑顔があふれるきっかけになったのではないかと思います。メンバー一同この活動で得た、原子力災害被災地の現状とコミュニティ再形成の難しさなどの学びを活かし、今後とも継続して富岡町の復興への一助になりたいと考えています。